The Superior Concept

AR8200

ワイドレンジレシーバー

取扱説明書

基礎編

AR8200

ワイドレンジレシーバー

取扱説明書

基礎編

はじめに

このたびはエーオーアール・コミュニケーション・レシーバーAR8200をお買い求めいただきましてありがとうございます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただいた上、正しくご使用ください。
この取扱説明書は機能別に書かれておりますが、AR8200が多機能なために、どうしても説明する事項が多くなります。
まずどのような機能内容があるかをご理解ください。
本書をお読みになられたあとも、保証書と一緒に大切に保管してください。ご使用中、操作などのわからないことや、具合の悪いことが生じた時にお役に立ちます。
クイックガイドは機能を捜す場合などにご使用いただけるようにまとめてあります。

目次

基礎編（本書）

応用編（別冊）

安全上のご注意

［安全上のご注意］では製品を安全に正しく使用していただき、あなたや周りの人々への危害を防ぎ、財産を守るための表示をしています。その表示の意味と内容をよくご理解いただいてから、本文および取扱説明書をお読みください。

	この表示を無視して誤った取り扱いをすると人が死亡、または傷害を負ったり、物的傷害などの発生が想定されます。
注意	この表示を無視して操作されますと人が傷害を負ったり、物的傷害などの発生が想定されます。
	この表示を無視して操作されますと、感電、火災、故障の原因となります。
	この表示は禁止の行為であることを表しています。この行為により機器の機能の低下、故障、火災、感電の原因になります。

警 告

	万一、焦げ臭いにおいのする場合や煙が出た場合は、直ちに電源プラグを外して煙が出なくなるのを確かめ、販売店等に修理を依頼してください。
	濡れた手で、電源アダプター等の抜き差しはしないでください。
	分解、改造をすると火災、感電、故障の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、破損した場合や、水などがかぶった場合には販売店などにご連絡ください。そのまま使用すると危険です。
	この機器の内部を改造したり、調整部などを動かしたり、フラッシュメモリの内容を改造した場合は、動作や修理の保証はできません。
	オプション・カードには純正カード以外の物を接続しないでください。 純正カード以外を接続した場合は回復不能な状態になることがあります。

注 意　安全に使用するために

付属の電源アダプターは本機以外に使用しないでください。

本機を受信機としての用途以外には使用にならないでください。

本機は乳幼児の手の届かない所で使用､保管してください。

電源アダプターは国内専用（100 V）です。国外での使用はできません。

アルカリ／マンガン乾電池を使用している時は充電をしないでください。
カーアダプターを使用する場合は乾電池を外してください。

コード類、本体、電源アダプターは無理に曲げたり、上に重い物をのせたりしないでください。火災、感電、故障の原因になります。

付属品、純正品以外の電源アダプターは使用しないでください。

次のような場所での使用や設置はしないでください。

- 炎天下の自動車の中や直射日光の当たる場所、暖房器具のそばなどで温度の高くなる場所。
- 温度が非常に低い場所。
- 湿度が高く露が付く場所､ホコリや油煙が多い場所など。
- 通風の悪いすき間のない狭い場所。

この機器を自動車に設置する場合は 12V ⊖アース車専用です。

この機器が近くのテレビ、ラジオ、電子機器、医療機器に影響を与える時は、使用しないでください。

外部アンテナを使用中に雷が発生した時は､アンテナ端子からアンテナ・ケーブルを外してください。

持ち歩く時は落下などの衝撃を与えないでください。

本機が汚れた場合は柔らかい綿の布などでふいてください。ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤などは使用しないでください。

お客様が受信した内容は、電波法上、内容、存在を第三者に漏らしたり､そのことによる行動を起こしたりすることが禁止されています。

第１章　使用前の確認・準備

1－1　使用上のご注意

アンテナについて

●受信状態はご使用になる場所やアンテナ、季節、昼夜などによって変化します。

●付属のアンテナ以外にもオプションまたは市販のアンテナも使用できます。
また家や車でご使用の場合は外部アンテナをおすすめします。

●一つのアンテナで全ての周波数を最適に受信することはできません。
目的の周波数に調整されたアンテナや広帯域アンテナなどを使用してください。

●本機のアンテナ接続端子はＢＮＣ型、インピーダンスは５０Ωです。

●ご使用になる場所によっては放送局や他の無線局の強力な電波の影響を受け、受信に妨害を受けることがあります。

●アンプ回路付きの外部アンテナやプリアンプ等の使用はおすすめできません。

リセット操作について

次のような状態の時は以下の操作をしてください。
（☞ 応用編９－１　P. 118　を参照）

●電源　(PWR) キーを押しても画面が消えない、何も操作できない。
→ 充電端子を外し、電池をどれか１つ１～２秒外す。（メモリ内容は消えません）

●電源キーを押しても受信動作にならない。
→ (CLEAR) キーを押しながら電源を入れる。

１－２　操作上のご注意

次の操作を行う時には注意してください。

●ほとんどのキー（押しボタン）は押した瞬間に音が出るのではなく、キーを離した時に反応して音が出ます。

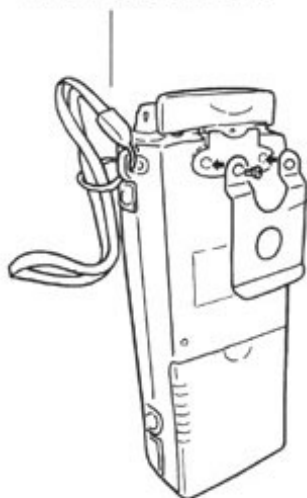
●キーロックの解除は本体側面の YKL キーを **１秒間** 押します。
◎入力操作状態ではキーロックできません。

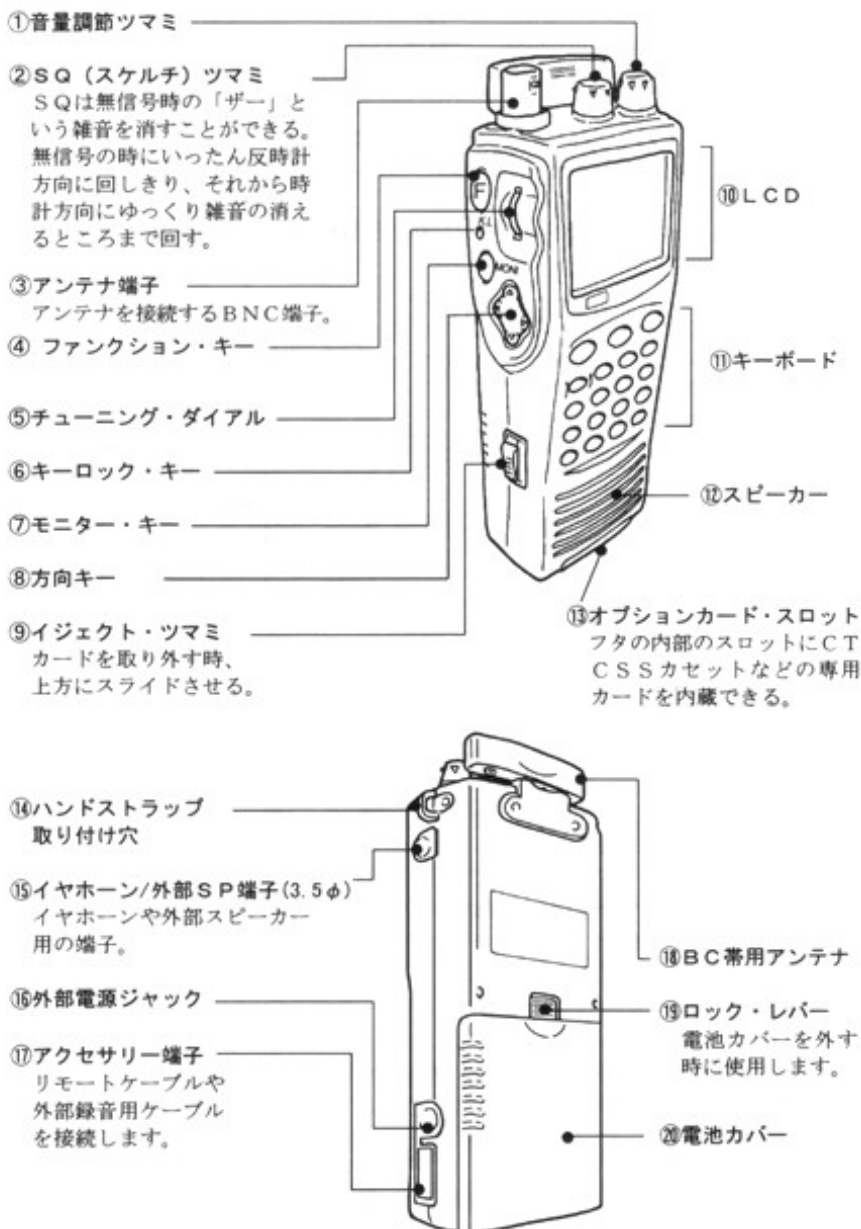
●入力操作で **約９０秒間** なにも操作しないでいると元の状態に戻ります。

●電源スイッチを切った時に現在の状態を内部メモリに書き込みます。
電源スイッチを切らないで電池等を外しますと最後の状態をメモリすることができず、次に電源を入れた時には、その前の状態で始まります。

1－3 付　属　品

AR8200の箱には下記のものが入っておりますので確認してください。

①ＡＲ８２００本体	（１台）
②ホイップアンテナ	（１本）
③ＢＣ帯用アンテナ	（１本）
④ニッケルカドミウム電池（単３型）	（４本）
⑤ＡＣアダプター（１００Ｖ）	（１個）
⑥カーアダプター	（１個）
⑦ハンドストラップ	（１本）
⑧ベルトクリップ	（１個）
⑨ベルトクリップ取り付けネジ	（２個）
⑩取扱説明書 **基礎編** （本書）	（１冊）
⑪取扱説明書 **応用編**	（１冊）
⑫クイックガイド	（１冊）
⑬保証書	（１枚）

1－4　各部の名称とはたらき

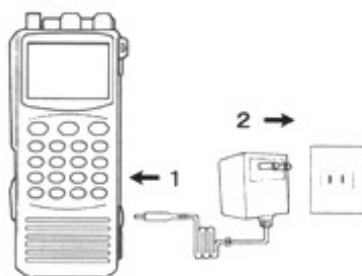
1）本体部の名称

１－５　電源について

１）充電のしかた

◎付属のニッケルカドミウム電池は、付属のＡＣアダプターやカーアダプターを使用して充電してください。
◎初めて使用する時や、長期間使用していなかった時は必ず充電をしてから、ご使用ください。
◎使用中に［ ］と表示された時は必ず充電を行ってください。
［ ］と表示された時は一度電源を切ってから充電を行ってください。

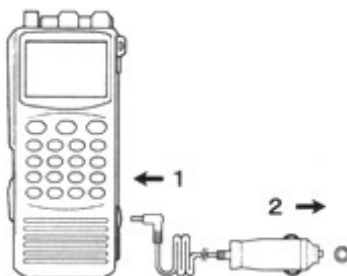
NOTE 電池による受信動作時間は受信状況、受信機の動作状態や音量の大小によって異なります。

１．**ＡＣアダプターで充電しながら受信することができます。**
この時、照明は連続点灯し、外部電源であることがわかります。
早く充電したい時は電源を切って充電してください。

２．**約12時間で満充電となります。**
通常使用で約４時間の連続受信ができます。

２）カーアダプター

◎このカーアダプターは12Ｖ(マイナス接地）の車専用です。
大型車などの24Ｖ車には使用できません。

◎付属のカーアダプターを車のシガレットライターに接続します。

◎電池を入れなくても使用できます。

NOTE ●カーアダプターにはヒューズが内蔵されています。
ヒューズ交換の際には必ず同じ定格（１Ａ）のものをご使用ください。
●カーアダプターは、先に本機の外部電源ジャックにＤＣプラグを差してから、シガレットライターに差し込んでください。
（ＤＣプラグの先端部が車の金属部に触りますとショートします）

3）電池について

■長期間使用しない時は電池を取り出してください。

1．ニッケル・カドミウム電池を長持ちさせる方法

◎過度の充電を避ける。
長時間（24時間以上）の充電は避けてください。

◎少し減ったら充電、少し減ったら充電を繰り返しますとニッケル・カドミウム電池にはメモリ効果という現象が発生して充電しにくくなります。
時々は完全放電させ、すぐに充電するようにするとメモリ効果が消えます。

◎長期間使用しない時でも時々充電してください。
過度放電の状態で長期間放置しますと使用不能になることもあります。

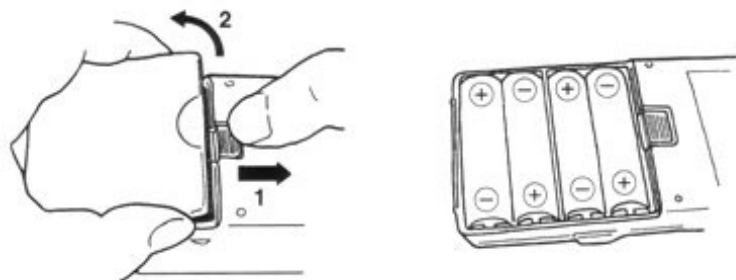
◎絶対にショートしないようにご注意してください。
発熱してケースを変形したり、火傷する場合もあります。

2．電池の交換

市販のアルカリ／マンガン乾電池も使用することができます。

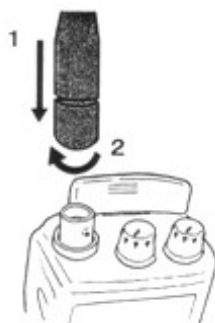
◎ＡＣアダプターやカーアダプターを使用するときは、必ず、充電できない単３型アルカリ電池等は、はずしてください。電池を装着したまま使用するのは危険です。
付属のアダプターを使用中は電池を外しても使用できます。

◎電池を交換する場合は必ず新しい同一メーカーのものを同時に４本交換してください。

①電池の交換を行う時は必ず電源をＯＦＦにしてから行います。
②裏面の電池カバーを図のように開けます。
③電池４本を⊕⊖をまちがえないように入れます。
⊖側がスプリングになっています。
④電池カバーを下部を本体下部の爪にはめ込みます。
⑤電池カバーを閉め、確実にロック・レバーをかけます。
（閉めるときはロック・レバーを動かす必要はありません）

１－６　受信準備

１）アンテナを取り付ける

1．付属のホイップアンテナ（または市販のアンテナ）をアンテナ端子に差し込み、アンテナコネクター部を時計方向に約1/4回転させ固定する。

◎アンテナには得意な周波数、不得意な周波数があります。１つのアンテナですべての周波数をカバーするのは少し無理があります。

2．ＢＣ帯用アンテナはＢＣ帯（中波放送帯）を受信する場合に使用する。

◎ＢＣ帯はＢＮＣ端子でも受信することができます。電波が強い放送局はホイップアンテナでも受信できます。
◎図の様に上部のフタをスライドさせて、ＢＣ帯用アンテナの前後を確かめてからしっかり差し込んでください。
◎室内アンテナなどに接続した場合は、ＢＣ帯用アンテナは外してください。
◎ＢＣ帯用アンテナを使用しない場合は上部のフタを閉めてください。
◎ＢＣ帯用アンテナ下部にある通し穴に、お手持ちのヒモを通し、本体のハンドストラップ取り付け穴と結んでおくと、アンテナ紛失防止になります。

２）電池を入れる

最初に受信をする前に付属の電池を充電しながら使用するか、乾電池を使用してください。

第２章　ボタン、キー、画面

2－1　側面パネルボタンのはたらき

ファンクション・キー　Ⓕ

●１度押す　　キーの機能を切り替える。
◎１秒間押す　キーの機能を切り替える。

キーロック・キー　KL

◎１秒間押す　ＯＮにすると各キーの操作が無効になる。持ち運ぶ時に使用。
解除は１秒押し。

方向キー　◆ ▲ ▼ ▶

●１度押す

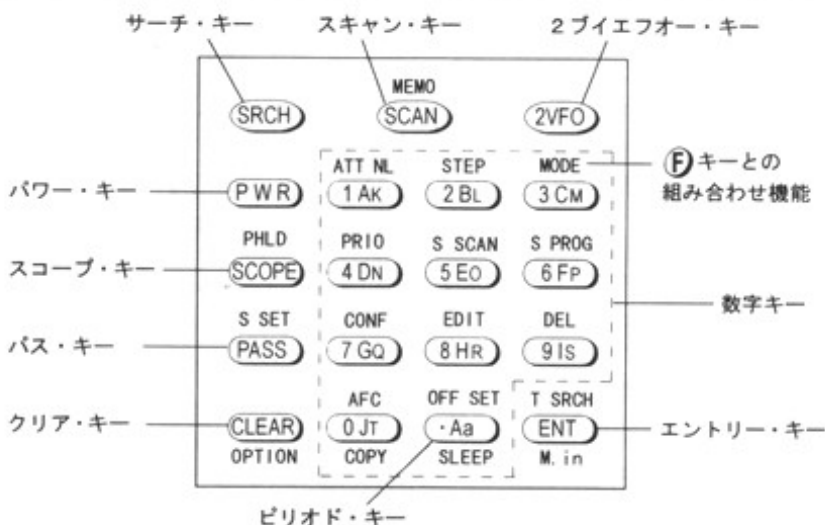
※ＶＦＯ時	上下方向ではゆっくり、左右方向では高速に周波数を変える。
※メモリ ch 読み出し時	上下方向で次のメモリ ch に移動。 左右方向で次のバンクに移動。 (次のメモリ ch を捜すのに時間がかかることがあります)
※スキャン、サーチ時	上下方向で次の周波数に移動する、検索方向を指定する。 左右方向で次のバンクに移動。
※周波数入力時	［▶］キーで末尾の数字１字を抹消。
※各種登録時	［▲］［▼］キーで変更項目の選択。入力項目の値を選ぶ。 ［▶］キーで１０の単位で値を上げる。 ［◀］キーで１０の単位で値を下げる。
※タイトル入力時	［◀］［▶］キーでカーソル移動。

チューニング・ダイアル　［ダイアル］

各種動作で［方向キー］と同様の機能をし、操作を簡単にする。
周波数を移動させる時やメモリchの切り替え、その他各種登録内容を変更する場合に使用。

モニター・キー　○MONI

受信信号が弱く、途切れる時などに押し続けて、聞き取りやすくする。
［DUP］が点灯している時は、基地局と移動局の周波数を切り替えて受信する。

2－2　キーボードのはたらき

キーの上の英文字は、基本的にⒻキーとの組み合わせ機能を表します。
「●１度押す」とは、キーを短くパッと押すことを意味します。
本書中では、特に指定がない限りこの押し方をします。
「◎１秒間押す」は、キーを１秒間以上押しつづけることを意味します。
〔　〕内の英数字は、その操作時に画面に示される表示です。

１）単独操作

(SRCH)

●１度押す　サーチ　〔SRCH〕
登録されている上下周波数の範囲で受信電波を検索する。

(SCAN)

●１度押す　メモリch（チャンネル）読み出し　〔M．RD〕
登録されているメモリｃｈ周波数を受信する。

●２度押す　スキャン〔SCAN〕
複数のメモリchの中から受信できる電波を検索する。

(2VFO)

●１度押す　２ブイエフオー　〔2VFO〕
マニュアル入力された２つの周波数のうち、大きく表示されているほうの周波数を受信する。

●再度押す　２つの周波数を切り替える。

◎１秒間押す　ＶＦＯサーチ。２つの周波数間をサーチする。〔V－SR〕

(PWR)
◎1秒間押す　　電源のON／OFF。

(SCOPE)
●1度押す　　バンドスコープ動作のON／OFF。
◎1秒間押す　　ピーク・サーチ。バンドスコープ時に最も強い周波数に移動する。

(PASS)
●1度押す
※メモリch読み出し時　　メモリchのスキャン・パスのON／OFF。〔PAS〕
※スキャン時　　受信しているメモリchをスキャン・パスする。
※サーチ時　　受信している周波数を周波数パスする。
※各種登録時　　実行する。指定値にする。OFFにする。　など
◎1秒間押す
※サーチ時　　サーチ周波数パス編集。〔SRCH PASS〕
※2VFO時　　VFO周波数パス編集。〔UFO PASS〕

(CLEAR)
●1度押す　　各種入力時に変更した内容を無効にする。
入力操作で分からなくなった時はこのキーを押す。
◎1秒間押す　　オプション・カードの操作。
使用するカードにより操作方法が変わります。

(1 AK)～(0 JT)
●1度押す　　周波数、バンク番号、メモリch番号等の入力。

(・Aa)
●1度押す　　小数点（MHzの位）の入力。小文字入力に切り替え。

(ENT)
●1度押す　　周波数入力などの各種登録の際に使用、登録の決定をする。
◎1秒間押す　　メモリ・イン。メモリに登録する。〔M－WRITE〕

2）ファンクション・キーとの組み合わせ操作 Ⓕ

－最初にⒻキーを押すことにより各キーは別のはたらきをします－

「◎１秒間押す」は　まずⒻキーを押し、次のキーを１秒間以上押し続ける操作です。
Ⓕキーと他のキーを同時に押すことはできません。

Ⓕ＋(SRCH)
●１度押す　　サーチ時の動作環境やリンクバンクを設定する。〔SRCH－MODE〕

Ⓕ＋(SCAN)
●１度押す　　スキャン時の動作環境やリンクバンクを設定する。〔SCAN－MODE〕
◎１秒間押す　　メモリchバンク数の変更、テキスト、保護の設定。〔M－BANK〕

Ⓕ＋(2VFO)
●２ＶＦＯ以外の時１度押す　　受信周波数を２ＶＦＯの〔Ａ〕または〔Ｂ〕に移す。
◎１秒間押す　　ＶＦＯ時の動作環境を設定する。〔VFO－MODE〕

Ⓕ＋(SCOPE)　　(P HLD)
●１度押す　　ピークホールド。バンドスコープ時波形の最大値を保持する。
◎１秒間押す　　ディスプレイ。メモリされたバンドスコープの波形を表示する。

Ⓕ＋(PASS)　　(S SET)
◎１秒間押す　　セレクト・スキャン登録chの追加、変更、削除。〔SEL SCAN〕

Ⓕ＋(1 AK)　　(ATT NL)
●１度押す　　アッテネーターのＯＮ／ＯＦＦ。〔ATT〕
◎１秒間押す　　ノイズ・リミッター。雑音を減少させる。〔NL〕

Ⓕ＋(2 BL)　　(STEP)
●１度押す　　周波数ステップの登録。〔STEP SET〕

Ⓕ＋(3 CM)　　(MODE)
●１度押す　　受信モードの選択、登録。〔MODE SET〕
◎１秒間押す　　オートモードにする。〔AUT〕

Ⓕ＋(4 DN)　　(PRIO)
●１度押す　　プライオリティ機能のＯＮ／ＯＦＦ。〔PRIO〕
◎１秒間押す　　プライオリティchの設定。〔PRIO SET〕

Ⓕ＋(5 EO)　　(S SCAN)
●１度押す　　セレクト・スキャンの開始。〔SEL〕

Ⓕ＋(6 FP)　　(S PROG)
●１度押す　　サーチバンクを登録する。〔SRCH－PROG〕

Ⓕ＋(7 GQ)　　(CONF)
●１度押す　　コンフィグ。受信機の操作条件を設定する。

Ⓕ + (8 HR)　(EDIT)
● 1 度押す　メモリ ch のコピー、移動、交換、変更等の編集。
サーチバンク、メモリ ch バンクのコピー。〔COPY〕

Ⓕ + (9 IS)　(DEL)
● 1 度押す
※サーチ時　サーチバンクの消去。〔DEL SRCH〕
※メモリ ch 読み出し・スキャン時　受信しているメモリ ch の消去。〔MEM DELETE〕
◎ 1 秒間押す　サーチバンク、メモリ ch バンクの消去。
周波数パス、VFO周波数パス、メモリ ch パス、セレクトスキャン、
メモリ ch 保護の解除。

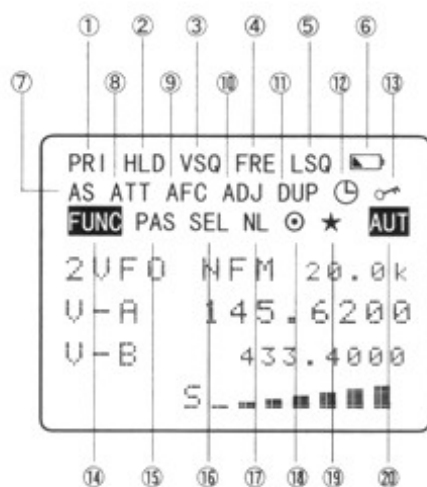
Ⓕ + (0 JT)　(AFC)
● 1 度押す　AFC。自動周波数合わせ機能のON／OFF。〔AFC〕
◎ 1 秒間押す　コピー。〔COPY〕
※オプションケーブル　AR8200 どうしのデータのコピー（クローン）。
※外部メモリ　メモリ ch、バンクなどのデータ交換、バックアップ。

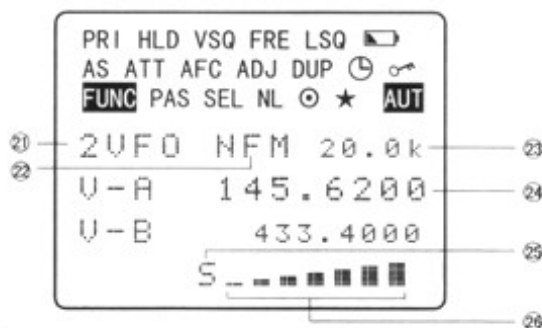
Ⓕ + (・Aa)　(OFF SET)
● 1 度押す　オフセット。〔OFFSET〕
基地局、移動局の周波数切り替えの設定。〔DUP〕
◎ 1 秒間押す　スリープ動作のON／OFF、設定。〔SLEEP〕

Ⓕ + (ENT)
● 1 度押す　テキスト・サーチ。〔TEXT SET〕
メモリ ch やサーチバンクのタイトル文字の検索。

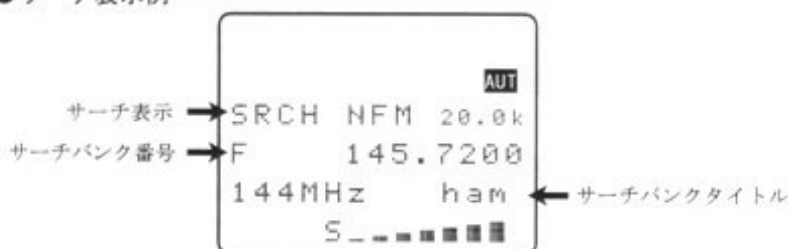
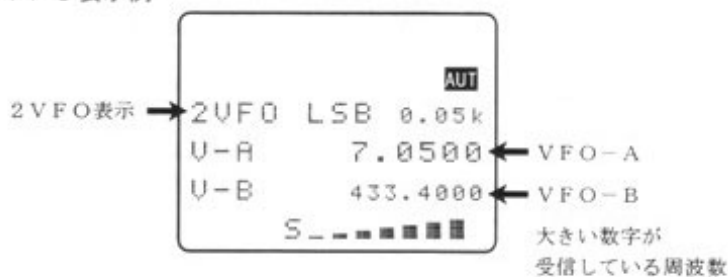
NOTE すべての機能が AR8200 本体に文字表示されているわけではありません。

2－3　画面表示および意味

1）画面の基本表示

①プライオリティ表示
②ディレー・ホールド表示
③ボイス・スケルチ表示
④フリー・サーチ／スキャン表示
⑤レベル・スケルチ表示
⑥バッテリー残量表示
⑦オート・ストア表示
⑧アッテネーター表示
⑨ＡＦＣ表示
⑩ステップ・アジャスト表示
⑪オフセット（デューブレックス）表示
⑫スリープ表示
⑬キー・ロック表示

⑭ファンクション表示
⑮周波数パス／チャンネルパス表示
⑯セレクト・スキャン表示
⑰ノイズ・リミッタ表示
⑱リモート表示
⑲クィック・メモ／ピークサーチ表示
⑳オートモード表示

㉑動作表示
㉒受信モード表示
㉓周波数ステップ表示
㉔受信周波数表示
㉕スケルチ表示
㉖Ｓメーター表示
（受信信号強度）

2）各種動作時の表示例

●サーチ表示例

●2VFO表示例

●メモリーch読み出し表示例

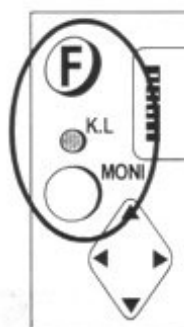
●スキャン表示例

2－4　よく使うキー

1）ファンクション・キー　Ⓕ

☞ 他のキーと組み合わせることによって、さまざまな機能に切り替えます。（ファンクション動作）

●操作でⒻ＋［　　］という表現がたくさん出てきます。

これは、Ⓕキーを一度軽く押してから、次のキーを押す操作です。（指をはなしても左上に FUNC が表示され続けます。）

NOTE Ⓕキーを 1秒間以上 押していると FUNC が点滅（ブリンク）状態になり、通常のファンクション・キーとしての動作をしません。別の目的の操作に使用します。再度Ⓕキーを押せば、ファンクション動作、および点滅状態は解除できます。

2）モニター・キー

☞ スケルチが開放され、音が出ます。

●送信局との距離が離れた時のように、受信信号が弱く音声が途切れるような場合は、［ MONI キー］を押し続けていれば、ＳＱ（スケルチ）が開かれ（左に回しきった状態と同じ）聞き取りやすくなります。
●〔DUP〕が表示されている時は、受信周波数が移動局側、または基地局側に変わります。
●バンドスコープの時はマーカーの周波数を受信します。

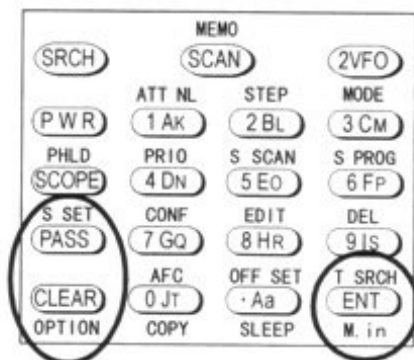
3）キーロック・キー

☞ ［ダイアル］と各操作キーを無効にします。

●キーロックは持ち運んでいる時などに何かでキーが押されたり、ダイアルが回ってしまい、目的とは違う状態なってしまうのを防ぐためにあります。
●キーロックしておくと［ダイアル］や操作キーを間違って触っても安心です。

操作方法

1．キーロックを掛けるには本体側面の KL キーを 1秒間 押す。
画面には左上に〔O⌐〕と表示されます。
2．解除には［ KL キー］を 1秒間 押す。

NOTE ［ KL キー］は誤操作を防ぐために小さくしてあります。

4）エントリー・キー　ENT

☞ 入力した内容を確定されたものとして登録します。

●複数の入力項目がある場合は最後に押すことにより変更したすべての内容を登録します。

5）パス・キー　PASS

☞ 多目的に使用します。　動作を理解の上、注意して使用してください。

●スキャン、サーチ時に押すと、その時受信していた周波数が登録され、以降その周波数を受信しないようになります。

●項目設定時には、設定項目のＯＮ／ＯＦＦ、実行、初期値との切り替え等に使います。

NOTE　(PASS)キーをスキャン、サーチ時に使用する時は、キーの意味を理解してから使用してください。周波数パスやメモリchパスに登録されて、以後その周波数を受信しなくなります。

6）クリア・キー　CLEAR

☞ 各種操作をキャンセルする時に押します。

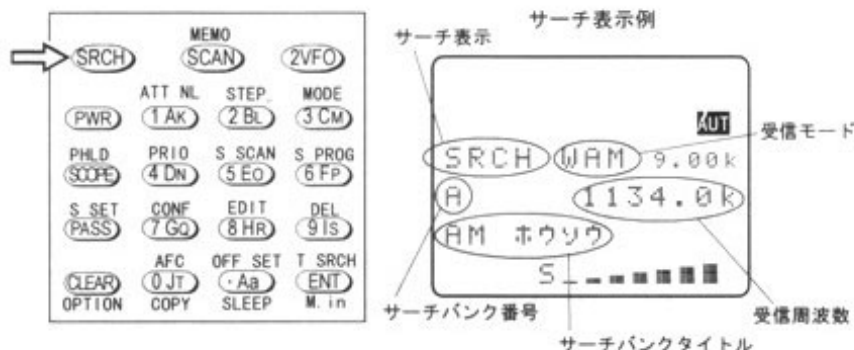
●間違えた時には (CLEAR)キーを押します。
操作が分からなくなった場合、間違えた場合に (CLEAR)キーを押すと、元の[ＳＣＡＮ]、[ＳＲＣＨ]、[２ＶＦＯ]などの状態に戻ります。

NOTE　◎ (CLEAR)キーを **１秒間** 押すとオプション・カードの操作になります。
◎一部 ＯＮ／ＯＦＦ 設定などではキャンセルできない場合もあります。

第３章　基本的な受信方法

SRCH
3－1　サーチ

SRCH キーを押す

☞ サーチはあらかじめ登録された周波数帯（サーチバンク）の中を、決められた周波数ステップで順番に受信を試み、受信できる電波を捜す機能です。

◆サーチの概念

●サーチバンクについて

◎特定の周波数帯にアルファベット記号をつけて設定したものをサーチバンクと呼びます。

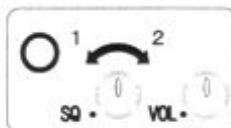
◎サーチバンクは合計４０バンクあり、工場出荷時にあらかじめ設定されていますが、自由に変更、設定登録できます。

◎各サーチバンクにはそれぞれアルファベットが割り当てられています。

サーチバンク番号	A　～　T	大文字２０バンク
	a　～　t	小文字２０バンク（☞ 3－1 P. 30 参照）

■スケルチ・ツマミの調整が適正でないと正常に動作しません。
ＳＱ（スケルチ）ツマミは反時計方向に一度回してから時計方向に回して音の止まる点に合わせてください。

■AR8200 におけるサーチは「応用編」にある各種の条件や、使用目的による組み合わせなどを行うことにより更に便利になります。

操作方法

1）サーチの実行

(SRCH) キーを押す。

◎画面に〔ＳＲＣＨ〕と表示され、受信した周波数のところで止まります。

◎再度 (SRCH) キーを押すと、次の周波数を検索し、受信します。

2）サーチの停止、再開

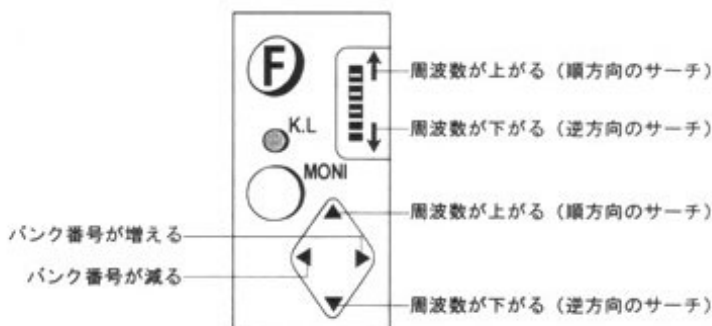
1．検索中に (SRCH) キーを押すと画面は〔ＶＦＯ〕になり、ＶＦＯ（手動）動作になる。

◎再度 (SRCH) キーを押すと先ほど止めた周波数から再び検索を開始します。

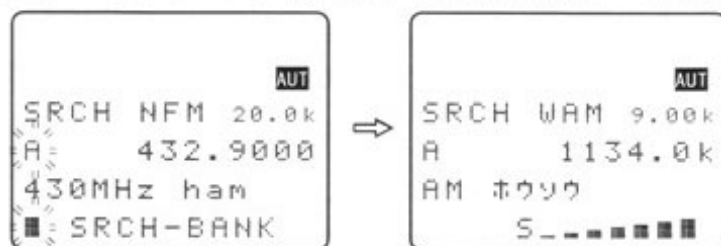
2．受信信号で停止中に［▲］［▼］キーか［ダイアル］を回すと次の信号を検索に行く。

◎この時、サーチの検索方向が［▲］なら順方向、［▼］なら逆方向に変わります。（ダイアルでも同じ）

3．［◀］［▶］キーを操作すると次のバンクに移る。

◎指定されたサーチバンクにサーチ・プログラムが無い場合は、次に見つけたバンクをサーチします。

3）サーチバンクを選ぶ

次ページの「バンク名の選び方」を参照して、A～T、a～tの各バンクを選ぶ。

1 AK キーを押すとバンク名の欄に〔A〕が点滅し、数秒後、Aバンクが選択される

NOTE 指定したバンクに内容が設定されていない場合は最寄りのバンクをサーチします。（工場出荷時は、K～T、k～tには内容が設定されていないので、それらを選択すると「J」および「j」バンクが選択されます）

サーチバンク別信号内容（工場出荷時）

A	中波放送	B	FM放送、テレビ　1～3 ch
C	VHF航空無線	D	UHF航空無線
E	アマチュア無線　144MHz帯	F	消防／救急
G	簡易業務無線（VHF）	H	簡易業務無線（UHF）
I	TV／VHF　4～12	J	アマチュア無線　430MHz帯

バンクの内容等は自由に変更できますので、目的によって変えてください。
（☞ 4－2 P.46　参照）

◆バンク番号の入力方法

サーチバンクやメモリchバンクを選ぶときは、下の表に従って[数字キー]を押します。

バンク名	操作	バンク名	操作 (1 AK)+	バンク名	操作 (·Aa)+	バンク名	操作 (·Aa)+ (1 AK)+
A	※(1 AK)	K	(1 AK)	a	※(1 AK)	k	(1 AK)
B	(2 BL)	L	(2 BL)	b	(2 BL)	l	(2 BL)
C	(3 CM)	M	(3 CM)	c	(3 CM)	m	(3 CM)
D	(4 DN)	N	(4 DN)	d	(4 DN)	n	(4 DN)
E	(5 EO)	O	(5 EO)	e	(5 EO)	o	(5 EO)
F	(6 FP)	P	(6 FP)	f	(6 FP)	p	(6 FP)
G	(7 GQ)	Q	(7 GQ)	g	(7 GQ)	q	(7 GQ)
H	(8 HR)	R	(8 HR)	h	(8 HR)	r	(8 HR)
I	(9 IS)	S	(9 IS)	i	(9 IS)	s	(9 IS)
J	※(0 JT)	T	(0 JT)	j	※(0 JT)	t	(0 JT)

◎サーチバンクの場合

※大文字の「A」バンクは (1 AK) を押してから、数秒待つ必要があります。
「J」バンクは (0 JT) を押してから、数秒待つ必要があります。

但し、それぞれ「A」=(0 JT)+(1 AK)、「J」=(0 JT)+(0 JT) と押せばすぐに変わります。

※小文字の「a」バンクは (·Aa)+(1 AK) を押してから、数秒待つ必要があります。
「j」バンクは (·Aa)+(0 JT) を押してから、数秒待つ必要があります。

但し、それぞれ「a」=(·Aa)+(0 JT)+(1 AK)、「j」=(·Aa)+(0 JT)+(0 JT) と押せばすぐに変わります。

3－2　周波数パス
PAS

(PASS) キーを押す

周波数パスは、サーチの時に受信する必要のない周波数を登録して、以後、受信しないようにする機能です。よく機能を理解してから操作してください。

■周波数パス機能は、常に電波の出ている周波数や、制御チャンネル、受信機内部ビートなどの周波数を登録し、サーチ時にそれらの不要電波で停止しないようにします。

◎パス周波数は１バンクにつき５０個まで登録できます。
◎パス周波数は登録したバンクに限りパスされて、受信しなくなります。

操作方法

1）パス周波数の登録

サーチ時に不要電波を受信した場合、停止している間に (PASS) キーを押す。
押した瞬間に受信していた周波数が周波数パスに登録されるので、その周波数はパスされ、すぐに次の周波数の検索を開始します。

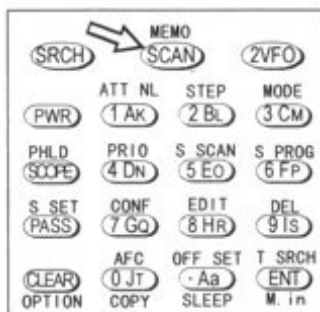
◎実際に受信した周波数をすぐに登録できます。
◎もしそのバンクにパス周波数が５０個すでに登録されていたらエラー音がでます。

NOTE １つのパス周波数を登録すると、おおよそその周波数の±１０ｋＨｚをパスします。ＳＳＢやＣＷなどのステップの細かい受信モードを使用する時は注意してください。

M．RD

3－3　メモリ ch 読み出し

SCAN キーを押す

よく受信する周波数は、メモリ ch（メモリチャンネル）として、いくつかのグループ（メモリ ch バンク）にまとめて登録しておくことができます。個々のメモリ ch を読み出して受信するのがメモリ ch 読み出しモードです。

●メモリ ch について

◎１つのメモリ ch には１つの周波数と受信モードなどのデータが書き込まれています。
◎メモリ ch バンクは合計２０バンクあり、それぞれアルファベットが割り当てられています。

メモリchバンク番号	A～J	大文字１０バンク
	a～j	小文字１０バンク

◎各メモリ ch にはバンク名とともに固有の番号が割り当てられています。

例　Ａ２３　はＡバンクの２３番のメモリ ch を意味します。
　　ｈ０８　はｈバンクの８番のメモリ ch を意味します。

操作方法

１）［数字キー］で読み出す

１．SCAN キーを押す。
◎画面に〔M．RD〕と表示され、メモリ ch 読み出しモードになります。
◎各チャンネルは上の表示例のように、受信周波数と受信モード、内容を表すタイトルなどが表示されます。

２．［数字キー］で目的のチャンネル番号を押す。
◎P. 31の**◆バンク番号の入力方法** を参考にバンク名を選び、続けて数字を入力します。

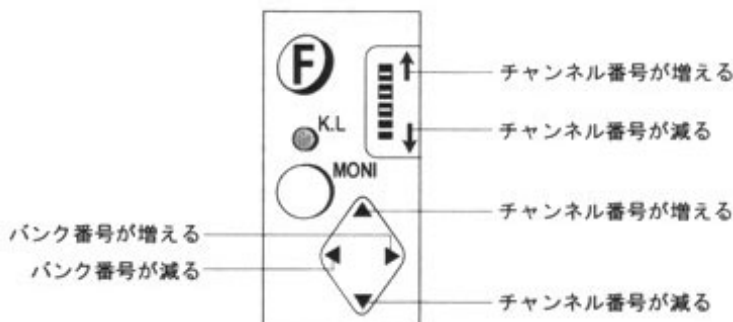
例 ①Ｄ２４を選ぶ。(大文字バンク)

(4 DN)(2 BL)(4 DN)と順番に押すとメモリch Ｄ２４を読み出します。
〔D　2　4〕

②ｂ０６を選ぶ。(小文字バンク)

(・Aa)(2 BL)(0 JT)(6 FP) と押す。
〔 b　0　6〕

NOTE ◎指定されたメモリch番号に内容が登録されてない場合には、次に見つけたメモリchを表示します。
◎次のメモリchを捜すのに時間がかかることがあります。

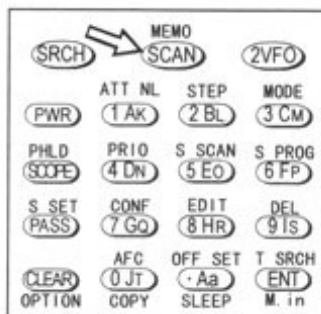
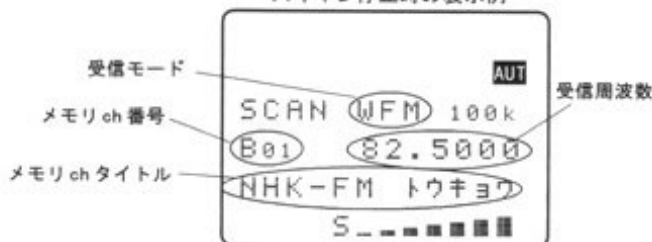
2)［ダイアル］で捜して読み出す

1．(SCAN) キーを押し、〔Ｍ．ＲＤ〕を表示させる。
2．［ダイアル］を回すとメモリch番号が１chずつ移動する。
　◎［▲］［▼］キーでも１chずつ移動します。
　◎［◀］［▶］キーでは次のバンクに移ります。

NOTE ◎メモリchの番号は、初期値では各バンク（Ａ～Ｊ、ａ～ｊ）にそれぞれ50chずつ設定できるようになっています。(合計1000ch)
◎次に表示するチャンネルまでの間に空きチャンネルが多い場合には、登録されているメモリchを順番に表示するため、多少時間がかかります。
◎再度(SCAN)キーを押すと〔ＳＣＡＮ〕と表示して、スキャンモードになり、検索を開始します。

SCAN

3－4 スキャン

SCAN キーを 2度 押す

☞ メモリchをメモリchバンク単位で順番に検索し、電波を受信する機能です。

操作方法

1）スキャンの実行

1．SCAN キーを押し、〔M．RD〕を表示させる。

2．スケルチツマミを調整する。

◎［ダイアル］を回していると受信信号のない所で「ザー」とか「サー」の雑音が出ます。
ここで［スケルチツマミ］を右に回し、雑音が消える少し先（白い点が10～11時前後）で止める。これで信号のある時だけ音が出るようになります。（この時Sメーターの〔S〕が消えます）

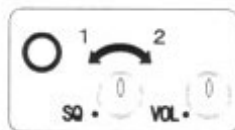
3．SCAN キーをもう一度押す。

◎メモリchが次々と変わります。この時メモリchバンクのタイトルが表示されます。

◎信号を受信すると停止して音が出ます。
この時はメモリchのタイトルが表示されます。一番下のバーは信号の強さを表します。

4．受信信号で停止中に［▲］［▼］キーか［ダイアル］を回すと次の信号を検索に行く。

◎この時、スキャンの検索方向が［▲］なら順方向、［▼］なら逆方向に変わります。
（ダイアルでも同じ）

5．［◀］［▶］キーを操作すると次のバンクに移る。

2）バンクを選ぶ

1．〔SCAN〕の表示のときに、［数字キー］を押す。

◎アルファベットに対応したバンクに移ります。

◎(・Aa)キーを先に押し［数字キー］を押すと小文字バンクになります。

（☞P. 31　参照）

例　①Bバンクをスキャンする。（大文字バンク）

(2BL)を押す。

②bバンクをスキャンする。（小文字バンク）

(・Aa)＋(2BL)を押す。

NOTE　指定されたバンクにメモリchがない場合は次に見つけたバンクを検索します。

工場出荷時の大文字バンクの内容は以下の表のようになっています。
（一部はすでにメモリchのデータが登録されています。）

メモリchバンク別内容（工場出荷時）

A	各種周波数、モードが入っています	B	各種周波数、モードが入っています
C		D	
E		F	
G		H	
I	マリンバンド	J	オート・ストア用バンクです

◎検索中に(SCAN)キーを押すとメモリch読み出しに戻ります。

◎受信信号で停止中に(ENT)キーを押すとVFOになります。

PAS

3－5　メモリchパス

PASS キーを押す

メモリchパスは、不要なのに常に電波が出ているため、いつも受信してしまうメモリchや、その時に限り受信する必要がないメモリchを、パス登録することによって、**スキャン時に受信しないようにする機能**です。

■ PASS キーは、スキャン 、2VFO、サーチなどの使用状態により機能が変わります。注意してください。

メモリchパス表示例

操作方法

1）メモリch読み出し時にパスを登録する

1．メモリch読み出しモード[M. RD]で、不要なメモリchを読み出す。
2．PASS キーを押す。

◎画面に〔PAS〕が表示され、以後スキャンしてもこのメモリchは受信されません。
◎パスを解除し、登録を復活させるときは、再度[M. RD]モードでそのメモリchを読み出し、再び PASS キーを押します。
〔PAS〕表示が消え、元のようにスキャン時に受信するようになります。

2）スキャン停止時にパスを登録する

スキャン時に、不要なメモリchで停止したら PASS キーを押す。

◎押した瞬間にパス登録されるので、このメモリch受信を中止し、次の検索を開始します。
◎パスを解除し、登録を復活させるときは、1）と同じように[M. RD]モードで行います。

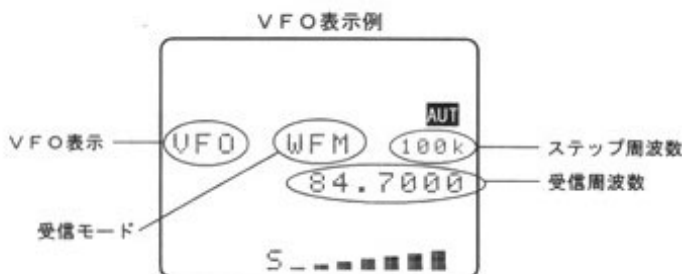
NOTE
◎メモリchパスはスキャン[SCAN]時のパス設定です。
◎メモリch読み出しモード[M. RD]では、パスの登録に関係なくすべてのメモリchを受信できます。

3－6　VFO

ENT キーを押す

☞ VFOは、ラジオのチューニングのように、手動で周波数を細かく調整して受信する機能です。

■普通、スキャン、サーチ、メモリch読み出しなどで受信した周波数から、[ダイアル]や[♠][♥]キーで調整し、受信したい周波数に合わせます。

VFO表示例

操作方法

1．スキャン、サーチ、メモリch読み出しのいずれかで、捜したい近辺の周波数を表示させる。

2．ENT キーを押すと画面に〔VFO〕と表示され、VFOモードになる。
◎ ENT キーを1秒以上長く押すと別の機能になるので、注意してください。

3．[ダイアル]を回すか、[♠][♥]キーを押す。
◎ステップ周波数の間隔で順次、電波を受信できます。(☞ 4－1 P.44　参照)

NOTE このほかに、直接[数字キー]で周波数を入力することもできます。
(☞ 4－1 P.45　参照)

3－7　2VFO

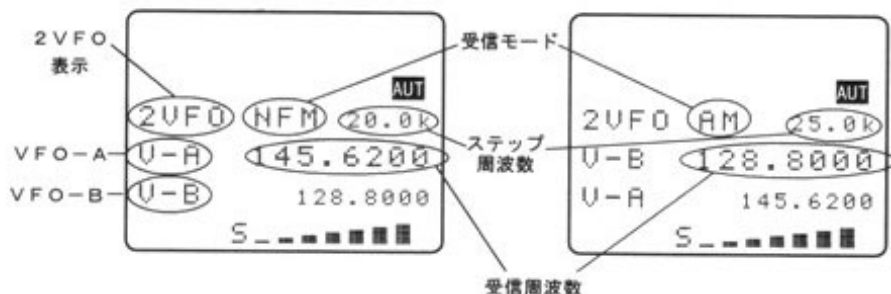
(2VFO) キーを押す

☞ 2VFOモードは、同時に異なる2つの周波数を切替えながら手動でチューニングする、VFOモードをさらに使いやすくした機能です。VFOと同じように、[ダイアル]や[▲][▼]キーによって、受信したい周波数を手動でチューニングできます。

2VFOの表示例

2VFO表示　受信モード　ステップ周波数　VFO－A　VFO－B　受信周波数

2UFO	NFM	20.0k
U－A	145.6200	
U－B	128.8000	

2UFO	AM	25.0k
U－B	128.8000	
U－A	145.6200	

((2VFO) キーでV－AとV－Bの周波数が切り替わる)

操作方法

1）2つの周波数を入替えながら、それぞれチューニングする

1．(2VFO) キーを押す。

◎画面に〔2UFO〕と表示され、その下に〔U－A〕、〔U－B〕の2つの周波数が示されます。

■実際に受信している周波数は、上の段に大きい数字で表示されている周波数です。

■表示されてる2つの周波数はそれぞれ独立した受信モード、ステップ等のデータを持っています。

2．[ダイアル]を回すか、[▲][▼]キーを押す。

◎実際受信している上の段の周波数から、ステップ周波数の間隔で順次電波を受信できます。　(☞ 4－1 P.44　参照)

3．もう1度 (2VFO) キーを押す。

◎上下の周波数が入れ替わり、もう一方の周波数を同じように調節して受信できます。

NOTE このほかに、直接［数字キー］で周波数を入力することもできます。
(☞ 4－1 P.45　参照)

2）他の動作モードで受信した周波数を２ＶＦＯに移す

スキャン、サーチ、ＶＦＯなどで受信した周波数や、その周波数がもつ受信モードを２ＶＦＯの上段に移して表示させます。

１．スキャン、サーチ、ＶＦＯなどで電波を受信する。
◎スキャン、サーチでは停止している（音が出ている状態）時に操作します。

２．Ⓕキーを押す。
◎画面に FUNC が表示される。
（FUNC が点滅してしまった場合はⒻキーを１秒以上押してしまったからで、再度Ⓕキーを押し解除します）

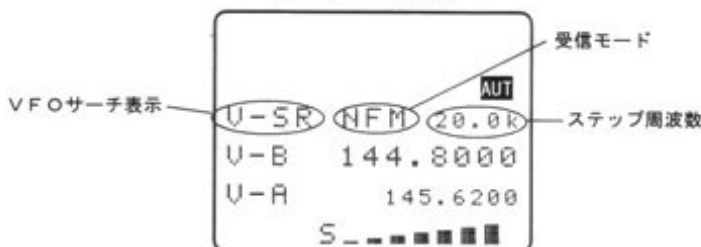
３．2VFO キーを押す。
◎その周波数が２ＶＦＯの上の段に表示され、手動でチューニングできるようになる。

V－SR

3－8　VFOサーチ

(2VFO) キーを 1秒間 押す

☞ 2VFOで設定した上段と下段、2つの周波数の間をサーチします。
一般的なサーチは、設定されたプログラムによって行いますが、VFOサーチの場合はプログラムを使わずに順次サーチしていきます。

VFOサーチ表示例

（144．8MHz～145．62MHzの間をサーチ）

操作方法

1．(2VFO) キーを 1秒間 押す。
◎画面に〔V－SR〕と表示されVFOサーチとなります。
◎〔V－A〕の周波数と〔V－B〕の周波数の間を自動的にサーチします。
◎受信モード、ステップ、開始周波数は上段に表示されている〔V－A〕または〔V－B〕の受信モード、ステップになります。

2．[ダイアル]、[方向キー] で、サーチしていく方向を決める。
◎信号を受信して停止した場合、次の周波数に移動するには、[ダイアル] を回すか [方向キー] を押せば、次のサーチを始めます。

3．(SCAN)、(SRCH)、(2VFO) キーなどを押すと中止する。

NOTE VFOサーチはVFOサーチ時の動作環境設定の条件下で動作します。
（☞ 応用編6－2　P.74　参照）

第４章　実際に受信してみる

4－1　ＶＦＯ、２ＶＦＯ時の周波数入力

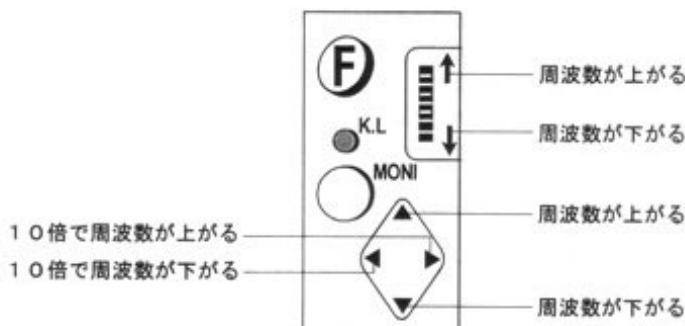
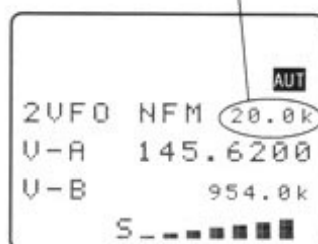
ＶＦＯや２ＶＦＯ時に、受信周波数を手動で入力する方法は、
1）［ダイアル］または［方向キー］によって周波数を変える方法　と、
2）［数字キー］によって直接周波数を入力する方法　があります。

操作方法

ＶＦＯまたは２ＶＦＯの画面にします。

1）［ダイアル］または［方向キー］による周波数変更

［ダイアル］を回す。　　または、［▲］と［▼］の［方向キー］を押す。

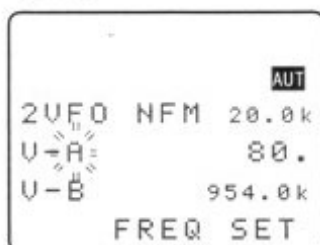
◎［２ＶＦＯ］時には上段の現在受信している周波数が変更されます。
◎ダイアルを１段階回すか、［方向キー］を１回押すごとに、設定されているステップで周波数が変化します。
◎［▲］［▼］キーを押しっぱなしにすると、連続して変化します。
［◀］［▶］キーは10倍のステップで変わります。（ただし、０．０５ｋＨｚステップの時は１ｋステップ）
◎Ⓕキーを押した後で［ダイアル］を回すと、周波数ステップが10倍に変わります。（解除は再度Ⓕキーを押す）
◎Ⓕキーを押した後で［▲］［▼］キーを押すと、１ＭＨｚ単位で変わります。
この時［◀］［▶］キーを押すとクィック・メモ読み出しになります。

2）［数字キー］で周波数を直接入力する

1．ＶＦＯまたは、２ＶＦＯの動作モード時に直接［数字キー］で周波数を入力する。
◎［２ＶＦＯ］のときは上段に周波数が入力されます。
◎入力単位はＭＨｚです。小数点以下は、(・Aa) キーの後に入力します。

2．数字の最後に (ENT) キーを押すと入力される。

例 ［８０．８ＭＨｚ］を入力する場合
(8 HR)(0 JT)(・Aa)(8 HR)(ENT) と入力する。
((・Aa) がないと小数点が入らないので［８０８ＭＨｚ］となってしまう）

```
                 AUT
2VFO  NFM  20.0k
V-A          80.
V-B        954.0k
      FREQ  SET
```

８０．まで入力した状態

◎３ＭＨｚ以下の周波数を入力すると、ｋＨｚ単位で表示されますが、入力はＭＨｚ単位で行います。
◎１ＭＨｚ＝１０００ｋＨｚです。低い周波数は通常［ｋＨｚ］単位が使用されます。

例 ９５４ｋＨｚ　の場合　＝０．９５４ＭＨｚなので、
(・Aa)(9 IS)(5 EO)(4 DN)(ENT)　または、
(0 JT)(・Aa)(9 IS)(5 EO)(4 DN)(ENT) と入力する。

画面の表示は〔954.0 k〕となる。

NOTE サーチバンクの登録などで周波数を入力する時も、すべて同じような入力方法になります。

● (F) キーを押した後で［数字キー］を押すと別の動作になります。
［数字キー］や［▲］［▼］キーを操作する前に (F) キーをもう一度押して解除してください。

3）［数字キー］入力時の修正

間違えた［数字キー］を押した場合［◆］キーで１文字ずつ戻ります。

例 ８５．４ＭＨｚと入力したい。
(8 HR)(5 EO)(1 AK) ◆ (・Aa)(4 DN)(ENT)

間違って押した数字　このキーで直前の〔１〕が消える

S PROG

4－2 サーチバンクの登録

Ⓕ＋ 6FP キーを押す

サーチバンクを新たに登録します。その際、バンクの初め（下限）と終わり（上限）の周波数や、受信モード、周波数ステップ、表示するバンクの名前などの設定が必要です。

操作方法

例1 バンク［L］を145．120MHzから145．820MHzに設定し、受信モード、ステップはオートモードにする。タイトルは［2m　BAND］と入れる。

■［▼］キーは各入力項目を決定し、次の項目に移ります。しかし、
■登録前に CLEAR キーを押せば、それまでの設定を無効にできます。
■ ENT キーを押した時点で、変更した設定が登録されます。

1．Ⓕ＋ 6FP を押す。

画面に〔SRCH－PROG〕と表示され、サーチバンク登録モードになります。

2．［ダイアル］、［◀］［▶］、または［数字キー］でバンク番号を選択し、［▼］キーで決定する。

◎［数字キー］でバンク番号を選ぶ場合は（☞P. 31）を参照してください。

例：バンク［L］を選ぶ

1AK 2BL ▼

［L］バンクを選んで決定したところ

◎A～T、a～tの計40バンクが選択できます。
◎該当するバンクが書き込み禁止の場合は、書き込むことはできません。
◎すでに登録されている内容が下の行に表示されるので、変更する必要がない場合は［▼］キーで送ります。

3．下限周波数[ＬＯ]を入力して、[◆]で決定する。

AUT
SRCH-PROG　L
LO　145.1
HI　----.----
START FREQ

145．1まで入力したところ

例：１４５．１２０ＭＨｚを入力

(1 AK)(4 DN)(5 EO)(・Aa)(1 AK)(2 BL) ◆

（☞P. 45 参照）

4．上限周波数[ＨＩ]を入力して、[◆]で決定する。

AUT
SRCH-PROG　L
LO　145.1200
HI　145.8
STOP FREQ

145．8まで入力したところ

例：１４５．８２０ＭＨｚを入力

(1 AK)(4 DN)(5 EO)(・Aa)(8 HR)(2 BL) ◆

◎周波数の上下はAR8200が自動的に判断して入れ替えることがあります。

◎設定周波数をそれまでと大きく変えた場合、以前のバンクの周波数パスのデータを消してください。新たに登録できるパスの数が少なくなってしまいます。

5．[ダイアル]または[◆][◆]キーで受信モードを登録する。

例：オートモードを選ぶ

[AUTO]　◆

◎反転表示部が選択されたモードです。

◎このとき、(PASS)キーを押すと自動的に[AUTO]になります。

受信モードについては（☞ ４－４　P. 54）参照。

6.カーソルが点滅している位置で[数字キー]と
[ダイアル]で、タイトル文字を入力する。

例：[2m　BAND]というタイトルを入れる

(2BL)+[ダイアル]で〔2〕を捜し ➡
(5EO)+[ダイアル]で〔m〕を捜し ➡
(1AK)で〔␣〕(スペース) ➡
(3CM)+[ダイアル]で〔B〕を捜し ➡
(3CM)で〔A〕 ➡
(4DN)+[ダイアル]で〔N〕を捜し ➡
(3CM)+[ダイアル]で〔D〕を捜し ➡

AUT
SRCH-PROG　L
CW AUTO WFM
LO　145.1200
2m B

2m␣Bまで入力したところ

◎タイトル文字の入力方法は、(☞P.50)を参照してください。
◎内容が後からでもわかるようなタイトルにします。

7.(ENT)キーでそれまでの設定を登録する。

これでサーチバンクの登録が終了です。

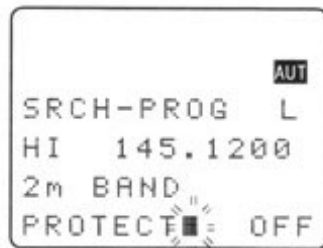
●サーチバンクを保護する場合

書き込んだサーチバンクが重要な場合、操作ミスなどにより消去したり、変更しないためにサーチ・プロテクトを設定して保護します。

①タイトル文字入力の後、(ENT)キーを押す前に[▼]キーを押して、〔PROTECT〕の行に移る。
◎画面の FUNC が点滅(ブリンク)している場合は(F)キーを先に押します。

②(PASS)キーで〔ON/OFF〕を選ぶ。

③(ENT)キーを押す。

AUT
SRCH-PROG　L
HI　145.1200
2m BAND
PROTECT■　OFF

■サーチ・プロテクトを〔ON〕にすると下記の操作ができなくなります。
・同じサーチバンク番号に新たな設定ができない。
・そのサーチバンクが消去できない。

例2 バンク［m］を118．000MHzから135．800に設定し、受信モード、ステップはオートモードにする。タイトルは［エアーBAND］と入れる。

1．サーチバンク登録モードにする。
F ＋ 6FP　　画面に〔SRCH－PROG〕と表示される。

2．バンク名を m に設定。
・Aa 1AK 3CM ↓

3．サーチ範囲を135．8MHz～118．0MHzに設定する。
〔LO〕に入力 1AK 3CM 5EO ・Aa 8HR ↓
〔HI〕に入力 1AK 1AK 8HR ↓

4．オートモードを選ぶ。
〔AUTO〕↓

5．［エアー　BAND］というタイトルを入れる。
Fキーを1秒間押す。
1AK 4DN 1AK 1AK 6FP 9IS　〔エアー〕　と入力される。
2BL ↑ 1AK ↑ 4DN ← 4DN ↑　〔BAND〕　と入力される。

6．登録する。
ENT

■例2の場合、高い周波数を〔LO〕に入力してしまったので上段と下段が自動的に入れ替わります。
■例2のテキスト文字の入力方法はポケベル方式の入力法です。
（☞ 応用編8－8 P.115　参照）

◆タイトル文字・記号の入力方法

一番下の行でカーソルが点滅している時に次の操作で文字を入力します。

1. [数字キー] を押すと暫定的に決められた文字が表示されるので、そこから [ダイアル] を回し、近くの文字を選ぶ。

ダイアルを上に回した場合、文字は以下の順番で次々にかわります。

3CM　5EO　7GQ　6FP　4DN

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ[¥]^_`
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{|}→←␣
。「」、・ヲァィゥェォャュョッーアイウエオカキクケコサシスセソタ
チツテトナニヌネノハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルレロワン゛゜
αäβεμσρq√⁻¹i×¢£ñöpqθ∞Ωü Σπx̄y÷█
!"#$%&'()*+,-./0123456789:;<=>?@

8HR　0JT　2BL　1AK　9IS

␣はスペース
「空白」を表す

2. [➡] キーでカーソルを1文字右にずらし、同じように次の文字を入力する。

■ [数字キー] は同じカーソル位置で何度でも押しなおすことができます。
■ (PASS) キーを押すとカーソル以降がクリアされます。
■ [⬅] キーで左に戻ります。
■文字は12文字まで入ります。(スペース、濁点なども1文字となります)
■文字の入力には、他にポケベル式の方法もあります。(☞応用編8－8　P.115 参照)

例 [2m　BAND] というタイトルを入れる

(2BL) を押すと〔1〕が表示される。[ダイアル] を回し〔2〕を捜す ➡
(5EO) を押すと〔a〕が表示される。[ダイアル] を回し〔m〕を捜す ➡
(1AK) を押すと〔␣〕(スペース) が表示される。 ➡
(3CM) を押すと〔A〕が表示される。[ダイアル] を回し〔B〕を捜す ➡
(3CM) を押すと〔A〕が表示される。 ➡
(3CM) を押すと〔A〕が表示される。[ダイアル] を回し〔N〕を捜す ➡
(3CM) を押すと〔A〕が表示される。[ダイアル] を回し〔D〕を捜す ➡

AUT
SRCH-PROG　L
CW　AUTO　WFM
LO　145.1200
2m　BANA

[BAND] の〔D〕を入力するために
(3CM) を押し〔A〕が表示されたところ

M－WRITE
4－3　メモリchの登録

ENT キーを　1秒間　押す

☞ その時点で受信している電波の周波数や受信モード､周波数ステップなどをメモリchに登録します。

■ VFO や 2VFO モードからは、登録したい電波の周波数を入力し受信した後に、ENTキーを1秒間押して、登録操作を始めます。
■ サーチやスキャンモードからは、登録したい電波を受信した時点で、ENTキーを1秒間押して、登録操作を始めます。

操作方法

例1 ２ＶＦＯモードで、周波数１２３．５ＭＨｚの電波を受信し、それををメモリch［Ｅ２５］（Ｅバンクの２５番）に登録する。
タイトルは［エアーＢＡＮＤ］とする。

＜準備＞
２ＶＦＯのモードから周波数を入れて受信する。

例：周波数１２３．５ＭＨｚを受信する。
2VFO 1AK 2BL 3CM ･Aa 5EO ENT

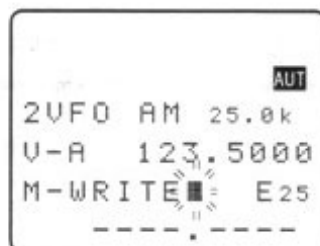
AUT
2VFO AM 25.0k
V-A 123.5000
V-B 145.8000

1. ENT　キーを　1秒間　押す。
画面に〔M－WRITE〕と表示され、
メモリch登録モードになる。

AUT
2VFO AM 25.0k
V-A 123.5000
M-WRITE█ j49
BANK

◎もし空きメモリchがあれば自動的に捜し出し、そのチャンネル番号を表示します。

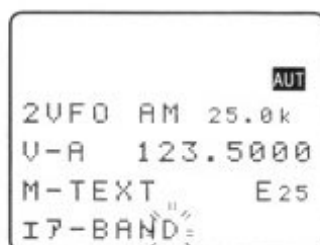
2. メモリchバンク名とメモリch番号を設定し、
[◆] で決定する。

例：メモリchを［E25］に指定する
(5EO)(2BL)(5EO) ◆

◎[◆] [◆]キーでバンク名をまず選び、その後[ダイアル]を回してch番号を選ぶこともできます。
◎すでにこのメモリchが登録されている場合はその内容が表示されます。
◎このメモリchが書き込み禁止の場合は書き込むことはできません。

3. カーソルが点滅している位置で[数字キー]と[ダイアル]で、タイトル文字を入力する。

AUT
2VFO AM 25.0k
V-A 123.5000
M-TEXT E25
エアーBAND

例：[エアーBAND] というタイトルを入れる。

(7GQ) + [ダイアル] で〔エ〕を捜し ◆
(7GQ) で〔ア〕 ◆
(2BL) + [ダイアル] で〔ー〕を捜し ◆
(3CM) + [ダイアル] で〔B〕を捜し ◆
(3CM) で〔A〕 ◆
(3CM) + [ダイアル] で〔N〕を捜し ◆
(3CM) + [ダイアル] で〔D〕を捜す

◎タイトル文字の入力方法は、(☞P.50) を参照してください。

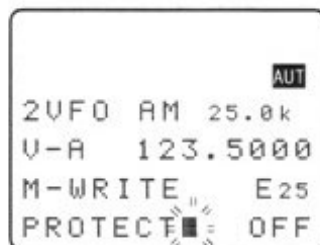
4. (ENT) キーでそれまでの設定を登録する。

これでメモリchの登録が終了です。

●メモリch保護を設定する場合

書き込んだメモリchが重要な場合、操作ミスなどにより消去したり、変更しないためにメモリchプロテクトを設定して保護します。

①タイトル文字の設定後、[◆] キーを押す。
◎画面の FUNC が点滅（ブリンク）している場合は(F)キーを先に押します。
② (PASS) キーで〔ON／OFF〕を選ぶ。
③ (ENT) キーを押す。

AUT
2VFO AM 25.0k
V-A 123.5000
M-WRITE E25
PROTECT OFF

■メモリchプロテクトを〔ON〕にすると下記の操作ができなくなります。
・同じメモリch番号に新たな設定ができない。
・そのメモリchが消去できない。

例2 サーチで受信した433．00MHzをメモリch d10 に登録する。
タイトルは［70cm␣メインチャン］とする。

1．サーチで433．00MHzを受信した状態から、

Ⓕ＋(2VFO)　433．00MHzが2VFOに移る

(ENT) 1秒間押す。　メモリch登録モードになる

2．メモリchを指定する。

(・Aa)(4DN)(1AK)(0JT)◆　［d10］に指定

3．［70cm メインチャン］というタイトルを入れる。

Ⓕ 1秒間押す。（画面の［FUNC］が点滅（ブリンク）する）

(7GQ)◆(0JT)◆(・Aa)(3CM)◆　テキストに［70c］が入る
(・Aa)(3CM)◆◆(7GQ)(4DN)　［m␣メ］が入る
(1AK)(2BL)(0JT)(3CM)(4DN)(2BL)　［インチ］が入る

Ⓕ ［FUNC］が消える。

(7GQ)＋［ダイアル］で［ャ］を捜す◆　［ャ］が入る
(9IS)＋［ダイアル］で［ン］を捜す　［ン］が入り、文字入力終了

4．登録する。

(ENT)

■例2のタイトル文字の入力方法は［数字キー］＋［方向キー］方式とポケベル方式を組み合わせています。（☞応用編8－8　P.115,116　参照）

MODE SET

4－4　受信モードのマニュアル（手動）設定

Ⓕ＋（3CM）キーを押す

電波は周波数帯によって変調方式（音声などを電波に乗せる方式、AMやFMなど）がだいたい決まっています。
受信モードとは、この変調方式や変調の帯域幅（広いと音質が良く、狭いとたくさんの無線局に割り当てられる）に合わせた受信方法のことで、受信周波数を変えると受信モードも変える必要があります。

AR8200のオートモードでは、受信周波数から受信モード、周波数ステップなどを自動的に設定しますが、手動で受信モードを変更する場合は、以下の方法で設定します。

操作方法

1．Ⓕ＋（3CM）キーを押す。
（Ⓕ＋（3CM）キーを1秒間押すと自動的にオートモードになるので注意してください）

2．［ダイアル］または［◆］［◆］キーで受信モードを選ぶ。
◎登録される受信モードは中央の反転表示部です。
◎受信モードは次のような順に並んでいます。
〔AUTO WFM NFM SFM WAM AM NAM USB LSB CW〕
（ここで（PASS）キーを押すと〔AUTO〕になります）

3．（ENT）キーを押して登録する。

■通常使用する受信モードは次の通りです。

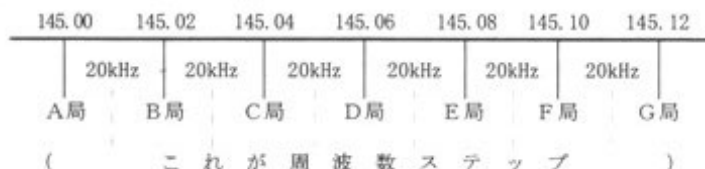
受信モード	使用局（例）
WFM（ワイドFM）	FM放送、テレビの音声、放送用中継波
NFM（ナローFM）	一般業務無線、アマチュア無線 （V、UHFではほとんどこの受信モードです）
SFM （スパーナローFM）	最近の無線電話など （ナローFMよりさらに帯域幅が狭くなっています）
WAM（ワイドAM）	近くの中波放送など音質重視の受信
AM	中波放送、短波放送、V、UHF航空無線
NAM（ナローAM）	短波放送などで混信の多い場合
USB	アマチュア無線、HF航空無線、短波通信
LSB	7MHz帯以下のアマチュア無線
CW	船舶通信、アマチュア無線

STEP SET

4－5　周波数ステップのマニュアル設定

Ⓕ＋（2BL）キーを押す

周波数ステップは各無線局に割り当てられている、周波数と周波数との間隔のことです。周波数ステップは周波数帯、受信モードによりほぼ決まっています。

例　２０ｋＨｚステップの場合

AR8200 では、オートモードにすることによって、受信周波数から周波数ステップが自動的に設定されるので、普通、以下の操作は必要ありません。

■特に必要な場合は、次の２通りのマニュアル入力でステップを設定できます。

◎もし、上部に〔AUT〕と表示されていたらオートモードです。

◎オートモードの時に、周波数ステップを変えると、オートモードは解除され、オートモード時に指定されていた受信モードが残ります。

操作方法

１）［ダイアル］で選ぶ

1．Ⓕ＋（2BL）を押す。

2．［ダイアル］を回し、下記の周波数ステップから選ぶ。
表示は次のようになります。（ｋＨｚ単位）

０．０５(50Hz)／０．１０(100Hz)／０．２０(200Hz)／０．５０(500Hz)
１．００(1kHz)／２．００／５．００／６．２５／８．３３／９．００
１０．００／１２．５０／２０．００／２５．００／３０．００／５０．００
１００．００
（これで現在確認されているほとんどの周波数ステップをカバーしています。）

3．（ENT）キーを押す。

```
2VFO AM    25.0k
V-A  123.5000
STEP:■:    25.00
 STEP SET
```

2）［数字キー］で設定する

1．Ⓕ＋（2BL）を押す。

2．周波数ステップを［数字キー］で入力する。
（ｋＨｚの単位の所に（・Aa）キー）

3．（ENT）キーを押す。

NOTE
◎［数字キー］で入力できるのは０．０５～９９９．９５ｋＨｚまでのすべてのステップです。０．０５（５０Ｈｚ）より低い値は入力できません。
◎（PASS）キーを押すと〔ＳＴＥＰ〕と〔ＡＤＪ＋〕が表示されます。
ステップ･アジャストは周波数ステップの設定だけでは目的の受信周波数にならない場合に使用します。
〔ＡＤＪ＋〕と表示された時はステップ・アジャスト機能が動作します。
（☞ 応用編８－５ P.103　参照）
◎８．３３ｋＨｚステップは２５ｋＨｚを３分割した周波数ステップです。
（８．３３ｋＨｚは次世代ＶＨＦエアーバンドの周波数ステップです）

AUT
4－6　オートモードの再設定

Ⓕ＋(3 CM) キーを 1秒間 押す

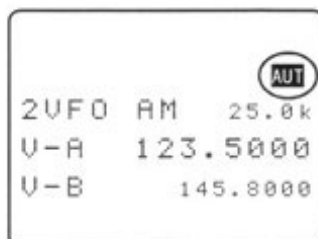
オートモードは受信周波数により受信モード、周波数ステップ等を自動的に設定する機能です。
通常、受信は自動的にオートモードで行われますが、操作の内容によってオートモードが解除されてしまう場合があります。
このようなとき、以下の方法でオートモードに再設定します。

■一部（テレビの音声など）を除き、国内で確認した電波はオートモードにしておけば受信周波数を入力するだけで受信できます。

操作方法

画面に〔AUT〕と表示されていない場合、この操作をしてオートモードにします。

Ⓕ＋(3 CM) キーを１秒間押す。

◎オートモードに設定され、画面に〔AUT〕と表示される。

NOTE
◎オートモードで自動ステップ・アジャスト機能が登録されている周波数帯があります。画面に〔ADJ〕と表示されます。
◎リピーターなどの基地局、移動局別々の周波数を使用している周波数帯の場合は〔DUP〕が表示されます。

■MEMO

購入販売店名			
購 入 年 月 日	年	月	日
AR8200 製造番号			